

登山 ハイキング

南アの上空は美しく燃えていた

◆岐阜・恵那山

▽2月20、21日▽静岡・三島勤労者山岳会▽後藤隆徳(四〇)、栗原一郎(三三)、矢部幸雄(三七)

20日、8時に三島を車で出発。中央高速を経て中津川インターを降り、黒井沢登山口に向かう。

14時登山開始。晴れ。1時間程で黒井沢山の家跡に着く。ミズナラなどの原生林が美しい所。沢ぞいの急な道をゆくと、しだいに雪も多くなる。下山者が3人。頂上にはいけなかったとのこと。

名もない峠を越えたと右手に野熊の池が見える。カラマツ林のなかをゆく。雪も深いところではヒザ上までもぐり。重い荷物が気になる。急な雪面を登り切ると尾根に飛び出る。南アルプスが黒い雲におおわれている。風が出てきた。一九九二峰へ着く。シラビソに付着した霧氷が夕日に赤く染まる。日没が近い。

い。ここからは先行者のトレースもなく、ラッセルはさらに苦しいものになる。

きよらの予定は山頂小屋までだが、この調子では着けるかどうか。中津川労山の松葉さんが飲んでくたさいといっていた「マタタビ酒」を飲みたしていたのだが…。ヘッ

ドラップをつける。暗い森のなかで3人のあかりがゆれる。19時10分ついにヒバークと決定。E字型に雪面をビッケルで削りツェルトをかぶる。

夕食は赤飯とハムのガーリック焼き。そして明後日は私の誕生日なのでそれを祝して洋酒で乾杯。こんな風に誕生日を祝える私はなんと幸福なのだろう。アマチュア無線電飯田の一人瀬さんと交信。23時まで語り合い、就寝。

21日、3時起床。5時半出発。快晴。20分ほどラッセルを続けると待望の恵那山(二一九〇)頂上へ到着。まだ薄暗いが、東の南アルプスの上空は美しく燃えている。かたい握手で登頂を喜び合う。写真を撮り下山。青空のもと、気持ちのよい下りが続く。それにしてもこの大展望は素晴らしい。

御岳山、乗鞍岳、穂高岳、中央アルプス、南アルプス、富士山。3人でどれがどの山と当て合。中津川で名物「笹栗」を買う。三島着16時。(後藤隆徳)

遠く障子ヶ岳北 面がキラキラと

◆福岡・英彦山(ひこさん)▽2月14日▽山口・小野田ハイキング米田幸男ほか28人

雪見ハイクと銘打って、3時間ほどマイクロボスにゆられて駐車場着。

この時期には珍しく快晴で、みんな雪の支度を置いていく始末。

クラブ紹介のミニコミ誌の取材記者と出会い、あいさつをすませて10時40分出発。奉幣殿までの急な石段のかたわらにはミツマタの花がつぼみをふくらませている。

指導標どおり鬼杉への道へ右の分岐に入ると、ゆるやかな道となり、虚空蔵地蔵への登り口で休憩とする。

杉の木立ちの薄暗い道も、仲間の笑い声ははじけとび、一汗かいたところで杉の巨木が目立つ鬼杉の分岐点に着き大休止。(米田幸男)

12時5分、空腹がまんし、材木石までの急登にあえぎ、展望台に出ると、ちらほらと雪が…。遠く障子ヶ岳北面はキラキラと光っているようだ。

調子の悪い人の荷を分担して鎖場へと向かうも、雪がついていず、楽々とクリアし、待望の南岳(二二〇〇)山頂へ13時5分着。風もなく、日だまりの芝草を独占して弁当をひろげる。

恒例となった、月例ハイクと誕生日の重なったM氏の幸運の「お誕生日会」を開催すると、まわりについていた人たちはあ然とした様子。

ケーキカットに続いて奥さんと子どもさんの秘密のメッセージを会員が代読。感激の涙が光り、企画した人たちがびっくりする。

中岳への下りは北面なので、ツルツルになっただけで、全員初めて緊張するも中岳まで、時間の関係でそのまま大きな石段を下る。

稚児落としを過ぎると、気温が高いので雪も解け、順調に15時10分、奉幣殿へ戻る。フリータイムとし、15時45分駐車場をあとにする。

(米田幸男)